

平成29年度 晃英館中学校・山口県桜ヶ丘高等学校普通科晃英館コース学校評価(自己評価)

3:達成できた・概ね達成できた 2:一部達成できた、不十分 1:達成できなかった

評価領域	重点項目	評価	反省と課題
学級経営	1. 基本的な生活習慣の確立 ○中学 ・挨拶・身だしなみ・時間厳守等の徹底 ・生活ノートを活用した個別指導 ・自己管理の習慣づけ ・学年の特性に応じた指導内容の明確化 ○高校 ・上級学年としての自覚ある行動を意識させる。 ・学校を支える存在として自立的・積極的行動ができるよう指導する。	2	・生徒による活用度の差が大きい ・時間や提出期限などを守れない生徒がいた  ・学年間の交流が少ない ・生徒会の生徒に任せるのではなく、全員が積極的に学校運営に関わる必要あり
	2. 学習習慣の確立と質的深化 ○中学 ・生活ノート、家庭学習記録の定期的な確認による状況把握と適切な指導。家庭学習の習慣化 ・個々に応じた目標設定と指導 ○高校 ・大学入試を意識した主体的な学習習慣の確立 ・各自の進路目標の具体化と課題の明確化	2	・課題のやり直しなどに時間を取られている。 ・放課後の使い方に問題がある。 ・家庭学習時間が増える傾向にある。  ・頻繁に質問に来るなど積極性が見られるようになった。 ・生徒の能力に応じての個別指導が多くなった。
	3. 進路意識の高揚 ○中学 ・進路学習、職場体験、立志式を通して、具体的な進路目標を設定できるよう指導する。 ○高校 ・進路学習、オープンキャンパスレポートなどを通して、進路目標を具体化するよう指導する。 ・時期に応じて具体的な数値目標を設定させ、あらゆる状況に柔軟に対応できるよう指導する。	3	・将来に対する意識は高まったが、今何をすべきかという学習にむすびつけることができなかった。  ・小論文指導・面接対策など多くの職員が関わった。 ・文理選択、科目選択の不徹底 ・自己分析の甘い生徒がいた。 ・国公立の進学先を実現できたが、忠告を聞かない生徒もいた。
	4. 望ましい集団づくり ・他を思いやり、異なる意見を尊重できる集団を構築する。 ・集団の一員としての意識を高め、集団における自分の役割を責任をもって果たすよう指導する。 ・集団行動のなかで、状況をふまえた行動がとれるよう指導する。 ・学校行事への取組を通し、積極性、協調性を養う。	2	・上級生になるに従って達成できたが、中学生では自分本意で物事を考える生徒がいた。 ・学年間の壁がある。  ・人間関係が固定化される傾向が強い  ・生徒会や各種学校行事で自ら進んで参加してくれた。
学習指導	1. 主体的な学習習慣の定着 ・基本的な生活習慣の確立を基盤に、自学自習できる生徒を育てる。 ・本校における中高一貫教育の3段階に沿った指導を徹底する。	2	・課題のやり直しに時間をとられ他の学習が疎かになってしまった。  ・新テストに対応するには2段階に見直すことが必要 ・立志式の見直し
	2. 学力伸長 ・各生徒の個人的なレベルに対応できるよう、きめ細かな教材を工夫する。 ・個別指導を継続して実施する。 ・中学の英語、数学で一部習熟度授業を取り入れ、理解度を高める指導を行う。	2	・放課後等を利用して個別指導を実施したが、生徒の要求に十分に答えることができなかった。 ・習熟度授業については、試行錯誤段階ではあるが、生徒の学習活動を支援する取り組みが実施できた。
	3. 大学入試改革への対応 ・新制度の研究とそれに対応した教育内容・活動の研究	2	・各種研修会や業者を呼んでの情報収集などを積極的に行ったが、出遅れ感がある。

進路指導	1. 進路に対する目的意識を高める(主に中1、中2)。	2	・中2生の進路意識・関心が高まらない。
	2. 主体的な学習態度を育成し、より具体的な進路探求を促す(主に中3、高1)。	3	・中3生は大学訪問の際積極的に質問した活動を実施できた。
	3. 進路希望実現に向けた効果的な受験指導を行う(主に高2、高3)。	2	・各模試の目的・位置づけが不明確であった。
	4. 6年間の進路計画の見直し	2	・出遅れ感はあるが、新テスト、新学習指導要領に関する情報を入手し、それを分析する必要がある。 業者模試の見直し(新テスト対応・記述)
生活指導	1. いじめゼロ ・生徒の状況確認のため、毎学期いじめ調査を実施 ・スマホマナー講習会実施	1	・調査後判明した問題については早急に事実確認を対応したが、未然に防ぐことはできなかった。 ・ネットパトロール等を利用し、迅速・適切に対応した。
	2. 生徒会の指導 ・生徒主体で委員会や学校行事を運営できるよう指	2	・学校行事ごとの業務分担
	3. 部活動への積極的な参加	2	・部活動に参加する生徒が少ない。 かるた同好会など新しい活動が始まっている。
	4. 安全事故ゼロ ・交通安全教室・指導等で交通マナーの徹底	2	・交通事故は1件だけだったが、単独事故が多かった。 重大事故が発生しなかったことは幸いである。 ・自転車通行ゾーンの変更による注意の喚起
	5. 人間形成 ・挨拶の励行・正しい言葉遣い (オリエンテーション合宿・大津島研修を契機に) ・ボランティア活動等奉仕活動への積極的参加の促進	2	・教員には礼儀正しくできるが、外部の方や他学年の生徒に対して、やや礼儀を欠く姿も見られた。 定期的に施設の活動に参加する生徒が出るなど意識は高い。メンバー登録や事業の紹介などの仲介が必要。